



2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年8月11日

上場会社名 株式会社マルイチ産商 上場取引所 名
 コード番号 8228 URL http://www.maruichi.com/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 社長執行役員 (氏名) 平野 敏樹
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 企画・管理部 (氏名) 清野 昌彦 TEL 026-285-4101
 四半期報告書提出予定日 2020年8月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	57,250	1.9	310	11.2	561	33.2	329	24.2
2020年3月期第1四半期	56,199	4.2	279	2.2	421	△4.3	265	1.4

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 434百万円 (169.0%) 2020年3月期第1四半期 161百万円 (△54.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	14.94	—
2020年3月期第1四半期	12.03	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第1四半期	52,499	22,101	41.2
2020年3月期	51,282	22,001	42.0

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 21,645百万円 2020年3月期 21,531百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	3.00	—	14.00	17.00
2021年3月期	—	—	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	3.00	—	13.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	240,000	4.0	1,900	1.1	2,400	0.9	1,500	15.1	68.01

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期1Q	23,121,000株	2020年3月期	23,121,000株
② 期末自己株式数	2021年3月期1Q	1,065,716株	2020年3月期	1,065,716株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期1Q	22,055,284株	2020年3月期1Q	22,051,437株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により経済活動が停滞し、特に4月の緊急事態宣言発出に伴い休業要請や外出自粛要請が本格化したことで、企業収益の悪化や外食や旅行・イベント関連への個人支出の減少により景気が急激に悪化しております。また、宣言解除後の第2波への懸念もあり、景気は依然として先行き不透明な状況が続いております。食品流通業界におきましては、学校休校や在宅勤務、外出自粛により内食需要が喚起された一方、外食や宿泊施設等の業務用マーケットが収縮するなど、大きな影響を受けております。

こうした環境下、当社グループは社会的使命であります食のライフラインを担う地域のインフラとして事業活動を継続しております。具体的には、感染拡大防止と事業継続の両立を図るためのガイドラインを制定して全従業員へ徹底し、感染予防及び職場での二次感染防止のための対策を徹底しております。

経営方針としましては、今年度を初年度とする新中期経営計画「創造2022」で掲げた基本方針「人の成長を以て変革を成し遂げ、更なる飛躍のための創造を推進する」に基づき、成長戦略による事業規模の拡大と付加価値による収益力の向上を目指しております。

当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は業務用マーケットへの販売が苦戦する中、内食需要の拡大により量販店への納品が伸長したことから572億50百万円（前年同期比1.9%増）となりました。利益面につきましては、売上拡大に伴い販売運賃が増加したものの、売上総利益の増加や管理費の減少等により、営業利益3億10百万円（同11.2%増）、経常利益5億61百万円（同33.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益3億29百万円（同24.2%増）となりました。

[セグメント別の概況]

※各セグメントの売上高については、セグメント間の内部売上高を除いて記載しております。

※なお、「(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しておりますので、下記の前年同期比につきましては、前年同期の数値を変更後の報告セグメントの区分に組み替えた数値との比較となっております。

<水産事業セグメント>

水産部門では養殖魚関連事業の拡大など川上分野へのシフトを志向しながら、さらなる安定供給体制の構築と販路拡大を進めております。デイリー部門では自社開発商品の販売拡大と、内食需要の拡大により売上が伸長いたしました。フードサービス部門では新型コロナウイルス感染症拡大の影響により主要販売先であります業務用マーケットが収縮し、特に子会社の業務用卸が苦戦を強いられております。

以上のことから、売上高につきましては326億43百万円（前年同期比0.1%増）となりました。

利益面につきましては、売上総利益の増加と管理費の減少等により、営業利益は1億6百万円（同66.2%増）となりました。

<一般食品事業セグメント>

子会社信田苧詰の製造機能と当社グループの水産品調達力を活かした商品開発と販売拡大を進めております。売上高につきましては、内食需要の拡大により調味料や簡便調理品の売上が伸長する一方、業務用商品や観光向け商品の売上が減少したことから75億54百万円（前年同期比1.7%減）となりました。

利益面につきましては、構内物流の生産性改善を図ったものの売上高の減少により、営業損失は83百万円（前年同期は6百万円の営業損失）となりました。

<畜産事業セグメント>

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による外食需要の悪化が響き、業務筋への国産牛の販売が苦戦したものの、内食需要の拡大に伴い量販店への販売が伸長し、関東・東海・中京エリアへの販売拡大を進めたことから、売上高につきましては95億11百万円（前年同期比14.1%増）となりました。

利益面につきましては、売上高の拡大による売上総利益の増加等により、営業利益は1億70百万円（同30.0%増）となりました。

<丸水長野県水グループセグメント>

業務用マーケットを主要顧客とする子会社の販売が苦戦したものの、内食需要の拡大を背景に県内顧客への販売が堅調に推移したことから、売上高につきましては72億94百万円（前年同期比0.8%増）となりました。

利益面につきましては、売上高の増加に伴う売上総利益の増加等により、営業利益は84百万円（前年同期比5.3%増）となりました。

<その他（物流・冷蔵倉庫事業、OA機器・通信機器販売及び保険代理店事業）>

子会社マルイチ・ロジスティクス・サービス㈱は、当社グループの物流業務・冷蔵倉庫事業の品質向上とローコスト体制の構築を、グループ内の各事業と連携しながら推進しております。業績につきましては、売上高は2億46百万円（前年同期比23.9%減）、営業利益は33百万円（同217.2%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は524億99百万円となり、前連結会計年度末と比較して12億17百万円の増加となりました。主な要因は、商品及び製品が6億85百万円、投資有価証券が1億78百万円増加したことによります。

負債は303億98百万円となり、前連結会計年度末と比較して11億16百万円の増加となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金が3億98百万円増加したことによります。

純資産合計は221億1百万円となり、前連結会計年度末と比較して1億円の増加となりました。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の42.0%から41.2%に減少しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期の通期の連結業績予想につきましては、現時点では2020年5月12日に発表しました業績予想に変更はありません。

※ 業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値とは異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,836	8,669
受取手形及び売掛金	17,919	17,938
商品及び製品	5,244	5,930
仕掛品	12	19
原材料及び貯蔵品	185	171
その他	2,683	2,955
貸倒引当金	△39	△30
流動資産合計	34,842	35,654
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,913	2,901
土地	7,494	7,494
その他(純額)	947	909
有形固定資産合計	11,355	11,304
無形固定資産		
のれん	175	153
ソフトウェア仮勘定	247	519
その他	111	122
無形固定資産合計	533	794
投資その他の資産		
投資有価証券	2,714	2,892
退職給付に係る資産	142	135
その他	1,850	1,878
貸倒引当金	△155	△160
投資その他の資産合計	4,550	4,745
固定資産合計	16,440	16,845
資産合計	51,282	52,499
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	20,772	21,171
短期借入金	1,200	1,200
1年内返済予定の長期借入金	250	284
未払法人税等	345	301
賞与引当金	609	315
資産除去債務	3	3
その他	3,232	4,269
流動負債合計	26,414	27,546
固定負債		
長期借入金	770	803
役員株式給付引当金	64	69
債務保証損失引当金	54	54
退職給付に係る負債	911	888
資産除去債務	62	62
その他	1,003	973
固定負債合計	2,867	2,851
負債合計	29,281	30,398

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,719	3,719
資本剰余金	3,388	3,388
利益剰余金	15,452	15,472
自己株式	△1,143	△1,144
株主資本合計	21,417	21,436
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	403	487
退職給付に係る調整累計額	△289	△278
その他の包括利益累計額合計	114	208
非支配株主持分	470	456
純資産合計	22,001	22,101
負債純資産合計	51,282	52,499

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
売上高	56,199	57,250
売上原価	50,242	51,087
売上総利益	5,957	6,163
販売費及び一般管理費	5,677	5,852
営業利益	279	310
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	54	125
受取賃貸料	58	54
その他	42	93
営業外収益合計	156	274
営業外費用		
支払利息	5	8
固定資産除却損	7	1
貸倒引当金繰入額	0	0
その他	1	13
営業外費用合計	14	24
経常利益	421	561
税金等調整前四半期純利益	421	561
法人税、住民税及び事業税	213	314
法人税等調整額	△74	△93
法人税等合計	138	220
四半期純利益	282	340
非支配株主に帰属する四半期純利益	17	10
親会社株主に帰属する四半期純利益	265	329

（四半期連結包括利益計算書）
（第1四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2019年4月1日 至 2019年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2020年4月1日 至 2020年6月30日）
四半期純利益	282	340
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△127	83
退職給付に係る調整額	6	10
その他の包括利益合計	△121	94
四半期包括利益	161	434
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	144	423
非支配株主に係る四半期包括利益	17	10

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動）

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	水産事業	一般食品 事業	畜産事業	丸水長野 県水グル ープ	計				
売上高									
外部顧客への売上高	32,615	7,685	8,334	7,239	55,875	324	56,199	—	56,199
セグメント間の内部 売上高又は振替高	480	38	349	26	894	820	1,715	△1,715	—
計	33,095	7,723	8,683	7,265	56,769	1,145	57,914	△1,715	56,199
セグメント利益 又は損失(△)	63	△6	131	80	269	10	279	—	279

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流・冷蔵倉庫事業、OA機器・通信機器販売・保険の代理店事業等を含んでおります。

2. セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	水産事業	一般食品 事業	畜産事業	丸水長野 県水グル ープ	計				
売上高									
外部顧客への売上高	32,643	7,554	9,511	7,294	57,004	246	57,250	—	57,250
セグメント間の内部 売上高又は振替高	481	18	361	56	918	819	1,737	△1,737	—
計	33,125	7,573	9,872	7,351	57,922	1,066	58,988	△1,737	57,250
セグメント利益 又は損失(△)	106	△83	170	84	277	33	310	—	310

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流・冷蔵倉庫事業、OA機器・通信機器販売・保険の代理店事業等を含んでおります。

2. セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間の期首より、当社グループ内の経営管理体制の変更に伴い、信田缶詰㈱の事業については、報告セグメントを「水産事業」から「一般食品事業」に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後のセグメント区分で記載しております。